

# 鉄道旅行計画

3年 一休左衛門

## 1.はじめに

私も三年生になり、部誌も今回が最後となる。一年次にはシステム、二年次には時刻表を書いてきた(学院鉄研HP参照)が、今回は“旅行”をテーマに書いていきたい。というのも、もともとはダイヤや配線に興味があったが、今となっては旅行が一番楽しいのである。学生が旅行する手段といえば公共交通手段しかなく、特に便利なのが鉄道だ。その魅力と、計画の立て方を皆さんに紹介したい。

## 2.魅力

私が初めて鉄道旅行で遠出をしたのは高校一年生の夏、合宿で北陸に行った時である。そこから合宿や、個人旅行を重ね、九州、北海道、近畿、中国、東海、東北、四国と各地方を飛び回り、2015年9月の時点で、沖縄県以外の46都道府県を制覇している。「親からお金を吸い取るな!」というツッコミが多々聞こえてきたので反論させていただくと、これは自分で稼いだお金なのである。「にしても足りないだろ!」と思われるのが普通であろう。だから私は、できるだけお金を使わないように計画するのである。一つ目の魅力はここにある。1日2370円。青春18きっぷだ。「聞いたことあるけど、18歳までしか使えないんでしょ?」私が旅行の話をする時、必ずと言ってこう返ってくる。これはもったいない。青春18きっぷは“誰でも”使うことができる。この切符は、5日分1枚セットで11850円。1人で5日間使うもよし、2人で1泊2日使い、1日分は一人旅でもよし、もちろん5人で日帰り旅行もよしである。具体的には、東京駅から日帰り熱海温泉旅行を計画したとしよう。東京～熱海は片道運賃1940円。往復すると3880円かかる。もうお気づきだろうが、この時点で元がとれるのである。早速買いに行こうと思われた方は少しお待ち願いたい。青春18きっぷは、発売・使用期間が限られているのと、在来線普通列車にしか乗車できない(例外有)のである。学生が休みである、夏・冬・春休みにしか購入・使用できないし、新幹線はもちろん、特急列車などにも乗車できない。詳しく話すと終わらなくなってしまうので、興味をお持ちの方は部員や駅員に聞いていただくか、ネットなどで確認していただきたい。当部誌でも少しではあるが、紹介している。是非ご覧いただきたい。

ところでJRといえば、沖縄以外、日本全国に広がっているわけである。これこそが二つ目の魅力である。1日2370円で大移動ができるのだ。青春18きっぷをうまく使うと、1日で関東から西は九州上陸、北は青森まで行くことも可能なのだ。日本縦断も夢ではない。

「でも、在来線で行くには時間かかるからなあ」という方。そこが三つ目の魅力なのだ。長距離移動時、飛行機や新幹線を使っていないだろうか?新幹線はトンネルが多く、さらには防音壁が我々の視界を邪魔し、つまらない時間を過ごした経験はないだろうか?飛行機は見渡す限りの青空は魅力的だが、スマホをいじったり、本を読んだり、日常と変わらない時間を過ごし、いつの間にか目的地に。なんて経験はないだろうか?もったいない!せっかく日常から離れるのだから、もっと身体を使ってほしい!五感で楽しめることに気付いた時、私は完全に旅行の虜になってしまった。のんびりと走る列車から、少しずつ移り変わる車窓を眺める。少々迷惑だが、窓を開けることだってできる。各地域の特徴的な建物や地形、匂い、風、音、気温、湿度…。言葉では言い表せないほど、様々な楽しみ方があるのだ。



↑長野県千曲市 JR篠ノ井線姨捨駅付近からの車窓（2015年8月25日撮影）

### 3.計画

さて、長々と魅力を皆さんにお伝えしようと努力したわけだが、なかなか文面だけでは難しい。実際には、足を運んでもらうのがベストである。そこで、日帰りから長期間まで、どのように計画を立てたらよいか、ということ具体的を皆さんにお伝えしたい。

まずはじめに、皆さんに用意していただきたいものがある。それは、目的と時刻表、そしてネットだ。今やネットの情報量は半端ではない。是非、文明の力を活用していただきたい。本題に戻る。ここで、目的といってもそんなに堅苦しいものではない。単純に「〇〇を見たい！！□□を食べたい！△△をやりたい！」で良い。そして、そこに行くにはどうしたらよいか、時刻表をもとに考え、ネットなどでより調べる。というのが大まかな流れだ。

#### 日帰り旅行

今回は例として、“日本三大車窓である、JR篠ノ井線姨捨駅からの車窓を見たい！”という目的を持ったとしよう。出発は私のJR最寄り駅である大宮駅で、せっかくなので、青春18きっぷで行ってみよう。ちなみに以下は、2014年12月下旬に実際に計画したものである。

初めに、姨捨駅に行くにはどうすればよいか。まず、場所がわからない方は早速ネットで検索していただきたい。するとJR篠ノ井線であることがわかる。時刻表で駅を探すと、中央本線で西に向かい、松本より先に行けばいいことがわかる。あとは目的地に到着したい時間を基準に時刻表をさかのぼればよい。（時刻表の読み方は昨年の部誌参照。学院鉄研HPでご覧いただけます）さて、これだけで終わらないのが私のお勧めする旅行だ。せっかく出かけるのに、半日で終わってしまっはもったいない。肉付けをしよう。まずは、姨捨駅周辺について調べる。景色を見るだけだったらすぐ終わってしまうが、駅周辺を事前に調べて行くことによって、より多くの楽しみ方を見出せる。私が調べた中では、駅周辺に

<b>大宮</b>	<b>5:45</b>
↓ 埼京線・武蔵野線・中央線	
<b>奈良井</b>	<b>11:11</b>
	<b>13:24</b>
↓ 中央本線・篠ノ井線	
<b>姨捨</b>	<b>15:08</b>
	<b>17:45</b>
↓ 篠ノ井線・中央線・武蔵野線	
<b>大宮</b>	<b>23:32</b>

棚田があるらしい。地図などで確認すると、駅から歩いていけそうだ。1時間滞在することは決定だ。さらに調べて行くと、夜景が綺麗だそう。これは見るしかない。ということは、明るい時間から夜までいたい。夕方あたりに2~3時間いることにしよう。大宮から姨捨が片道約6時間。帰りは自ずと決まるが、行きはまだ猶予がある。ということで、調査続行。中央線沿線になにか撮影スポットなどがないか調べてみると、中山道の宿場町の面影を残している「奈良井宿」というのを見つけた。奈良井駅で降りれば



良いらしい。奈良井駅は塩尻から、さらに西に進めば良い。最寄り駅~奈良井を始発で調べ、奈良井~姨捨の時刻を調べ、姨捨で2~3時間滞在、そして、暗くなったら帰る。という時間を時刻表で組み合わせた結果…なんとか日帰りにおさまった。前頁の表は主要駅の発着時間を表わしたものだ。冬なので、17:45でも十分暗い。この時の計画は大成功であった。

### 長期間

↑長野県塩尻市 古い街並みの残る奈良井宿 (2014年12月19日撮影)

日帰りの鉄道旅行計画の方法を習得した皆さんなら、長期間も簡単である。計画方法はほとんど変わらないからだ。目的を持ち、そこに行くために日帰り旅行と同じように計画していく。始発駅と終点駅が異なるだけなのである。強いて言えば、ホテルだろうか。少し話はずれるが、私は当部活の合宿などを経て、ビジネスホテルのすばらしさを知った。約2年間で50泊はしただろうか。その経験もあってか、最近では“地雷”ホテルに泊まる機会は減った。だが、最初の頃は、値段とサービスの相場を理解せず、



嫌な思いをしたこともあった。ここで皆さんにお伝えするとすれば、宿泊地は、大都市をお勧めする。理由としては、①ホテルの数が多②故に価格競争が起きて少し安く泊まれる、だ。あとは、少し贅沢したいという方は温泉地もいだろう。温泉地の最寄り駅から送迎ありというホテルも少なくない。

←山形県尾花沢市

銀山温泉

2015年7月26日撮影

## 4.まとめ

どうだろう、興味を持っていただけたらだろうか。忙しい方々には、このようなのんびりとした旅行は難しいかもしれないが、是非一度実践してほしい。日常の喧騒から抜け出してほしい。

以上のように、ずらずらと私の趣味を押し付けてきたわけだが、これこそが私の高校生活そのものであったと言わせてほしい。最初は“鉄道”にのみ興味があって入部をした。ダイヤ・配線・システム…そんなものに興味があった。だが今は、日本中を旅し、その土地、地域に触れることが、日々の忙しさを支えてくれる生きがいなのだ。

最後になるが、“旅行”について述べさせてほしい。私は高校3年生の夏休みだけで16泊し、30を超える都道府県を巡った。なにがここまで私を惹きつけるのだろう。それは、現地での経験ではないかと思う。現地で仲良くなる人はたくさんいる。定年された方々から、様々な業界の話聞き、お勧めの観光地を聞き出す。そして、今まで行った旅行の話で盛り上がる。もちろん日本人だけとは限らず、英語圏の方、中国・台湾の方とも話す機会がある。私は外国語が得意ではないが、困っていそうだったり、目があったりしたら、積極的に声をかける。京都では台湾、東北ではオーストラリアの方と仲良くなった。そう、現地での経験、つまりコミュニケーションから“今の”日本が見える。各観光地には中国人があふれ、いかに観光地が中国に支えられているか、いかに日本の交通が海外の人々にわかりにくいのか、いかに日本の観光地が外国人を魅了しているか、いかに日本人が日本を知らないか…そんなことが垣間見える。

“一期一会”この言葉がぴったりだろう。旅行中出会う人とは数分～数十分、長くて数時間の付き合いだ。別れたら、もう一度会うなんてことはないだろう。私は人生でも同じことが言えると思う。期間は違えど、数か月、数年、数十年の付き合いの後、別れたらもう一度も会えないかもしれない。私はこのように考えている。事実、中学校で別れた友のうち、会ったのは数えるほどだ。皆さんもそんな経験はないだろうか。旅は人を成長させる。よく言われることだが、これは本当かもしれない。今後も、人との出会いや、様々な機会など、後悔しないように、一瞬一瞬を大切に全力で向かっていきたい。そんな決意で、最後の部誌を締めくくる。

